

株張りが広い品種「あさのか」の栽植方式	分類	普及情報
〔要約〕幼木時から株張りが広い品種「あさのか」では，県標準栽植方式の条間50cmを60cmに広げて定植すると多収となる。		
茶業部栽培研究室	連絡先	0993-83-2811

〔背景・ねらい〕

「あさのか」の特性を生かした栽植方式（条間，株間，栽植本数）について検討を行い，品種特性に適した栽植方式を明らかにする。

〔成果の内容・特徴〕

- 1 「あさのか」は，幼木時の株張りが広い品種である（図2）。
- 2 「あさのか」では，県標準栽植方式に比べ，条間や株間を広げると株当たりの収量は増加する（表2）。
- 3 面積当たりの収量は，条間を60cm（条間×株間：60×45cm）に広げると，県標準栽植方式と比較して多収となる。また，株間を67cmに広げ，栽植本数を県標準の70%（約1650本）まで減らしても，標準栽植方式と比較して大幅な収量減は認められない（表3）。

〔成果の活用面・留意点〕

- 1 普及対象地域は，県下全域の「あさのか」新植園である。
- 2 施肥量は，定植年次別の県標準施肥量に準ずる。

表1 栽植方式の構成

No.	条数	栽植方式 条間×株間	条間 (cm)	株間 (cm)	うね幅 (cm)	栽植本数 (本/10a)
1	2	45×67	45	67	180	1658
2	2	60×67	60	67	180	1658
3	2	60×45	60	45	180	2468
4	2	<u>50×45</u>	50	45	180	2468
（県標準）						

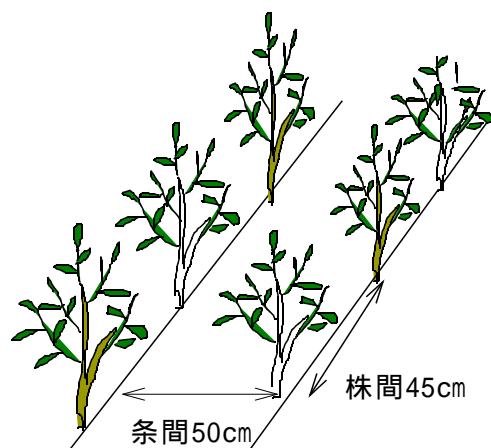


図1 県標準栽植方式（2条千鳥植）

注) 1. すそ刈り等は通常管理で実施

2. 当茶園は，ポット苗を平成9年6月定植（前年秋挿し）

〔具体的なデータ〕

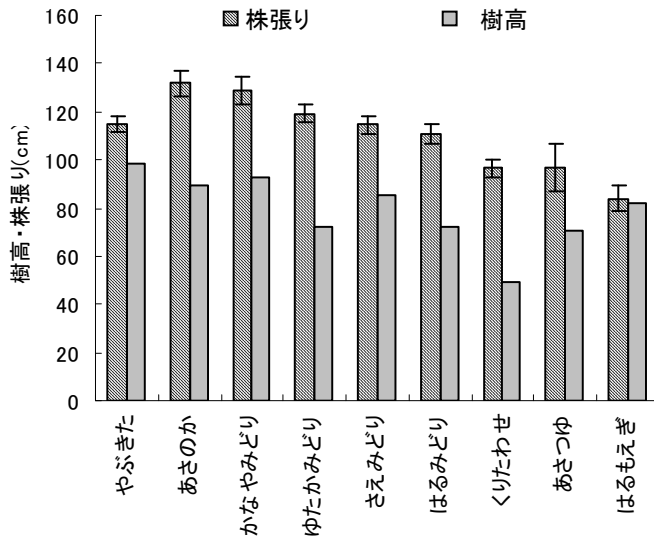


図2 幼木時の株張り，樹高

注) 平成17年3月定植の幼木(2年生苗，県標準栽植方式)。調査日：平成18年11月。

表2 「あさのか」の栽植方式と1株当たりの収量(g/株)

栽植本数 No. (本/10a)	栽植方式 条間×株間	年次(定植後経過年数)		
		平成13年 4年目	平成14年 5年目	平成15年 6年目
1	45×67	375(157)	545(168)	850(164)
2	60×67	324(136)	486(150)	761(146)
3	60×45	321(134)	375(116)	608(117)
4	50×45(県標準)	239(100)	324(100)	519(100)

注) 1. 収量は一・二・三番茶合計。

2. 表中の( )は県標準に対する指数。

表3 「あさのか」の栽植方式と生葉収量(kg/10a)の推移

栽植本数 No. (本/10a)	条間 ×株間	年次(定植後経過年数)						5年間 指数平均
		平成13年 4年目	平成14年 5年目	平成15年 6年目	平成16年 7年目	平成18年 9年目		
1	45×67	622(106)	904(113)	1254(106)	1875(109)	1039(100)	(107)	
2	60×67	537(91)	806(101)	1115(95)	1668(97)	946(91)	(95)	
3	60×45	792(134)	925(116)	1271(108)	1921(112)	1081(104)	(115)	
4	50×45	589(100)	800(100)	1179(100)	1720(100)	1038(100)	(100)	

注) 1. 平成13~16年の収量は一・二・三番茶合計，平成18年は一・二番茶合計。

2. 平成17年二番茶後深刈り処理実施。

3. 表中の( )は県標準に対する指数。

〔その他〕

研究課題名：多様な品種特性に適応した環境保全型栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成18年度(平成16~19年度)

発表論文等：平成14~18年度 茶業試験場(茶業部) 栽培に関する試験成績書